

●北上運河・東名運河

■北上運河・東名運河

宮城県の北上川と松島湾を結んでいる運河です。北上川から鳴瀬川までを北上運河といい、鳴瀬川から松島湾までを東名運河といい、ともに野蒜築港のなかの一つとして掘られたものです。

野蒜築港とは、明治のはじめわが国初の西洋式の港湾工事として、鳴瀬川河口付近に一大貿易港をつくろうとした事業です。その計画は鳴瀬川の河口を東方に付替えてそのあとを内港とし、河口の外洋に宮戸島方向に防波堤を設置して外港とし、内港背後地には新市街地をつくり、福島、岩手県とは運河及び河川水路で、日本海側とは道路を改修新設して結ぼうとするものでした。港の設計は内務省御雇のオランダ人ファン・ドールンでした。

明治11年内務省土木局の直轄とし工事に着手し、北上運河は14年に、東名運河は17年に、そして内港は15年に完成しましたが、17年9月の台風で内港の突堤が破壊されたのを契機に外港に手がけることなく、工事打ち切りとなってしまいました。



北上運河（ライトアップイベント）



北上運河（石井閘門）

【出典：「貞山・北上運河沿革考 遠藤剛人著」より】